

論語教室だより

『寺子屋・こども論語塾』世話人会

第 69 号

2016 (平成28) 年12月17日(土)

いちねん ふ かえ この一年を振り返って

寺子屋・こども論語塾 主宰 新田 修

塾生・保護者の皆さんにとって、この一年はどんな年だったでしょうか。

「寺子屋・こども論語塾」は、試行錯誤を繰り返しながらも、多くの方々の深い理解と協力により、丸6年が経ちました。改めて心から感謝申し上げます。

さて、論語塾のこの一年を振り返ってみると、2月は私がインフルエンザに感染してしまい、それまで一度も休まずに続けてきた塾を中止せざるを得ませんでした。大変迷惑を掛けたことを申し訳なく思います。6月には、3年越しの懸案事項であった「懇親会」をおおなみそりよさんかいただいてゆういぎかつせいでいかに開催することができました。次回は「親子で参加可能な形式にして開催してほしい」との要望を是非取り入れたいと思います。今年最大のイベントは、開塾以来はじめての試みとなる坐禅三昧・論語三昧を9月に実施したことです。特に論語三昧では、素読大会参加者も論語授業展開者も堂々と各自の持ち味を活かした取り組みをされており、子供達の無限の可能性を垣間見た気がします。

喜ばしいこととしては、この一年で8名(子供4名・大人4名)の塾生を新たに迎えたことがあげられます。毎回熱心に参加して徐々に慣れてきているようです。

論語塾を離れて今年の嬉しいニュースとしては、東京工業大学の隈良典名誉教授がノーベル生理学・医学賞を受賞したこと。北海道日本ハムファイターズが10年振りの日本一に輝いたこと。そして、北海道代表の北海高等学校が夏の甲子園で初の準優勝を飾ったこと。卒業生として涙しながら校歌を共に歌ったあの時の感動は一生忘れられない出来事となりました。

悲しいこともまたたくさんありました。震度7を2回も記録した熊本の大地震。そして、イジメを苦に自殺した小・中・高生の痛ましい悲劇。(震災避難の子供に対するイジメには一層の憤りを禁じ得ません)繰り返されるこの現状にどう向き合えばよいのでしょうか。重い課題として残りました。

今年も残すところ後わずかになりました。この冬休みは、希薄になりつつある親子の対話が一層深まることを期待しています。どうぞよいお年を！

【お知らせ】

この一年間を通して、孔子の教えの「仁の心」を実践し、可能な限り出席し続ける努力をした塾生に、努力賞を授与します。以下はその7名です。(敬称を省略します)

・街道花、・街道夢、・街道太陽、・八重樫優花、・深見理良、・渡邊春太郎、

・永井みずず

【本日の流れ】

本日は開塾6周年を記念して佐野公平先生のご高話がありますので、流れは以下の通りとなります。なお、坐禅と論語は時間を短縮して行いますのでご了承下さい。

- ① 坐禅 (15分)
- ② たよりの説明及び論語 (30分)
- ③ ご高話 (35分)
- ④ 表彰式 (10分)